

- 1 報 告 地 区：宗谷地区
- 2 事例報告学校名：豊富町立兜沼小中学校
- 3 報告者職・氏名：校長 堀 博 樹
- 4 キーワード：僻地・小規模校の地域連携小中併置の環境素材を生かす

1 はじめに

豊富町は北に稚内市、南は幌延町、東は猿払村に隣接し、西は日本海に面している。各市町村との境界は、起伏続きの山脈をもって連なっており、中央に流れるサロベツ川は、延々蛇行し海岸地帯を迂回して天塩川に注ぎ、サロベツ川流域は一大平原を形成している。



本校は、利尻・サロベツ国立公園の北端に面し、広大な丘陵地帯にある。寒冷な気候を利用した酪農がさかんで、豊富牛乳のブランドとして全国各地に出荷されている。学校の歴史は古く、サロベツ原野の開拓とともに学校が開設され、今年、兜沼小学校開校117年・兜沼中学校開校77年を迎えた。2020年度からは小規模特認校（小中併置）として、小学生17名、中学生2名の計19名が学ぶ、僻地にある小さな学校である。

2 学校経営

地域住民の教育に対する期待は大きく、子どもたちを地域の宝として大事に育てている。また、学校が地域コミュニティの中核を担っており、地域にとって大切な存在となっている。本校のようなへき地にある学校の課題は、少人数であることから、大きな集団の中で培われるコミュニケーション能力や社会性、競争心などが育たないこと、集団学習や学び合いができないこと、遊び相手がいらないことなどであるが、一方、へき地教育には三特性「へき地性」「小規模性」「複式形態」という優位性があり、へき地の学校だからこそできる教育があると考えます。具体的には、児童生徒の一人一人の個性を生かす個に応じたきめ細かな指導、自学自習の経験を生かした自ら学び考える力の育成、豊かな自然環境を生かした教材や体験活動、地域住民と連携・協力した教育活動などができる強みがある。

また、小中併置を生かした乗入れ授業を行い、より専門性を高めることができる。本校では、これらのへき地教育の特色を最大限に生かしながら教育活動を行っている。

『未来を拓く子ども』～やさしく かしく たくましく～

節	学年	やさしく 自他を認め仲良く協力できる	かしく 自ら課題を見つけ筋道を立てて考え、解決し、表現できる	たくましく 最後まであきらめずやり抜く人
前期	小1、2年	ア 笑顔で挨拶ができる	ア 自分の考えを発表できる	ア よく運動する
	小3、4年	イ 人の話を最後まで聞いてあげられる	イ 文章の内容を正しく理解できる	イ 基本的な生活習慣が身についている
中期	小5、6年 中1年	ウ 分け隔てなく、誰とでも仲良くできる	ウ 学んだことをわかりやすく説明できる	ウ 自律心がある
後期	中2年	エ 自他の個性を尊重し、多様な価値観を認め合える	エ 基本的な学力・学習方法を身に付けている オ 習得した知識・技能を活用して問題を解決できる	エ 自分の立てた目標を最後までやる遂げる
	中3年			

■児童生徒の「Well-being」

○学校生活で嫌なことや心配事がない
「わかった・できた実感」

■児童生徒の「Well-being」

○保護者・地域から信頼されている
「心理的安全性がある」

■保護者・地域の「Well-being」

○子どもが楽しく学校に通っている
「ニーズに応えてくれる」

■学校の「Well-being」

○児童生徒・保護者・地域の満足度が高い
「信頼されている」

3 地域との連携

(1) 地域合同運動会

学校がある兜沼地区とそれ以外の3地区で合同運動会を開催している。運動会前には学校が主体となり、4地区の代表・PTAが集まり、今年度の運動会の計画について主催者会議を開催している。その中では、グラウンド整地や当日の役割分担についても話し合われる。当日は、地域青年部の方々が中心となって行う競技もある。また、児童生徒との「ふれあう」機会ということから、敬老種目などの際には、児童生徒が直接、敬老席まで出向き、参加を促す取組も行っている。地域から大勢の方が参加する一大イベントとなっている。



(2) ふるさと教育

総合的な学習の時間では「ふるさと教育」を中心に「地域の歴史・産業」と「環境」についての2本立てを基本として行っている。

① 地域の歴史と産業

- 1年生～兜沼の昔の遊び
- 2年生～兜沼マップ
- 3年生～豊富町の魅力図鑑
- 4年生～豊富町マップ
- 5年生～豊富町の歴史
- 6年生～豊富町の産業

中学生～豊富町をPR（リーフレットやインスタグラムなど）

全体の共通課題を～私たちの町 未来をつくろう！～とし、この課題をもとに学年ごとに課題を設定し、課題解決に向け取組を進めている。課題解決に当たっては、様々な資料や関係者・地域の方々から話を聞いたり、関係関連施設の訪問などを行っている。



② 環境

環境については「自然体験学習」とし、春・夏・冬に「ポラリス・ネイチャーガイズ&コンサルタント」に講師をお願いし、兜沼公園や利尻礼文サロベツ国立公園などで身近な動植物について学習を進めている。

(3) 地域行事

行事は小中で地域と合同で実施することで、集団の経験ができています。運動会はもちろん、学校祭にも保護者の他、多くの地域の方々も見に来ることに加え、準備をお手伝いいただいている。

その他にも、お祭り・文化祭・クリスマス会・餅つきなど地域の方々や老人会と一緒に活動し、各イベントでも重要な役割を担っている。



4 おわりに

本校では「児童生徒と社会の幸せ（Well-being）を創る理念の実現のために」を目標に掲げている。子どもたち一人一人の幸せを実現し、人格の完成を目指し、保護者、地域の期待を担っていかねばならない。そのために子ども・地域、保護者、学校・教職員それぞれのWell-beingを追及した教育活動を今後も推進していきたい。